

優秀賞

— 福島県知事賞 —

## ワーケーションで 福島に元気を！

猪苗代中学校・1年 ヨシダ コウセイ 吉田 昊生

二〇二一年三月十一日、東日本大震災から丸十年の節目を迎えます。当時三歳だった僕は、震災当日のことはもちろん、その直後の福島県内がどれほど大変な状況だったかという記憶はありません。しかし、中学一年生となった今、僕も福島県の未来を考え、そして担っていく一人となりました。

平成二十三年(二〇一一年)三月一日当時の福島県の人口は、約二百二万人、震災一年後の平成二十四年三月一日現在の人口は、約百九十七万人と約五万人も減っています。しかしながら令和二年(二〇二〇年)十一月一日現在の人口は約百八十二万人と、およそ二十万人もの減となっているのです。住所を移さずに避難されている方もいるので、実際にはもっと人口が少ないのではないのでしょうか。県外の避難先から戻られない方もいて、全国的に出生率も低下している今、この先の福島県の劇的な人口増加は望めないと思います。

そしてその人口の減少に伴い、空き家が増加し続けています。ここ猪苗代町も例外ではありません。そこで提案したいのが『空き家を利用したワーケーション』です。

ワーケーションとは、観光地やリゾート地でテレワークを活用し、働きながら休暇を取る過ごし方のことです。昨今のコロナ禍により在宅勤務が推奨され、働き方も大きく変わり、IT機器さえあればどこにいても仕事ができる世の中になりました。自分の職場を自分で自由に選択できると言えるでしょう。

このワーケーションで物件を利用してもらうべく、一軒家なりアパートなり、借上げを希望する家主から自治体が一括借上げし、更にワーケーションを希望する人に貸し出すというのはいかがでしょうか。涼を求める人は夏場だけ、雪を求める人は冬場だけ、または年間を通して借りてもらいその人の好きな時に好きなように来てもらう。月単位でも季節

単位でも年単位でも選択は自由。光熱水費の契約と管理も自治体が行い、かかった分だけ家賃と一緒に支払ってもらえるようにすれば、面倒な手間もなく利用することができると思います。

ワーケーションで滞在してもらっている間は、きっと地元の商店や飲食店などを利用するはずなので、少なからず経済も潤います。また、気に入ってもらえれば、その住宅の購入や将来的な定住も視野に入れてもらえるのではないかと考えます。

四季折々の風情豊かな福島県。ワーケーションにはもってこいの素晴らしい場所だと思います。

急激な人口増加や大きな経済発展を目指すのではなく、僕が提案したように福島県の魅力を知ってもらえるような小さな発信を積み重ね、人々が集い笑顔の溢れる福島県にしていきたいです。